

ADDIEプロセスを適用した注釈付楽譜集の作成

—『子どものうた弾き歌いベスト50』を例に—

深見友紀子

(児童学科教授)

赤羽美希

(東京藝術大学大学院修了)

中平勝子

(長岡技術科学大学eラーニング研究実践センター助教)

筆者らは、eラーニング教材『教員・保育者のためのピアノ実技eラーニングコース』において、注釈付楽譜（ピアノ弾き歌いをする際の注意事項や助言を書き込んだ楽譜）を提供している。当初、これらは模範演奏映像を補完するものとして作成されたが、「大変有益であり、提供曲数を増やしてほしい」と評価する学生が多かった。そこで筆者らは、注釈付楽譜と模範演奏映像とを双極と捉え、厳選した50曲に対して新たに注釈を付けて市販品（『子どものうた弾き歌いベスト50』（仮））として提供することにした。模範演奏教材を作成する場合は、定型化したeラーニング教材の撮影方法を適用することで質保証が可能となることが多いが、注釈付楽譜については参照すべき知見がないため、eラーニングにおけるインストラクショナルデザインの方法に基づき作成を行った。本稿では、ADDIEモデルに準拠する形で実施した、注釈付楽譜に対する学生の意見の分析、注釈の表記方法に関する検討、楽曲の選定、注釈付楽譜の作成のプロセスをまとめ、報告する。

キーワード：保育者養成 ピアノ 歌唱 弾き歌い 注釈付楽譜 子どものうた ADDIEモデル

1. はじめに

筆者らは、2008年4月、『教員・保育者のためのピアノ実技eラーニングコース』（<http://oberon.nagaokaut.ac.jp/kwu/piano/>）を開発し、代表的な子どものうたについて、ピアノ弾き歌い模範演奏映像、声楽模範演奏映像、注釈付楽譜、より良い歌唱のためのFAQなどのインターネット配信を開始した。注釈付楽譜とは、ピアノ演奏や歌唱に関する注意事項が楽譜の段間に書き込まれた楽譜であり、このコースには「とんぼのめがね」「思い出のアルバム」「ぞうさん」「しゃぼんだま」「森のくまさん」の5曲の楽譜（PDF形式）がアップロードされている。また、これに先立つ2007年5月、深見は、『この一冊でわかるピアノ実技と楽典—保育士、幼稚園・小学校教諭を目指す人のために』（音楽之友社）において2曲（「あめふりくまのこ」「いぬのおまわりさん」）の注釈付楽譜を掲載した。

『教員・保育者のためのピアノ実技eラーニ

ングコース』を制作した当初、主たる教材はピアノ弾き歌い模範演奏映像や声楽模範演奏映像であり、注釈付楽譜は補助的な位置づけに過ぎないと考えていた。ところが、2009年度前期、児童学科固有科目「児童音楽Ⅰ」の履修学生約100名に『教員・保育者のためのピアノ実技eラーニングコース』を閲覧させ、質問紙調査を実施したところ、注釈付楽譜は有益であるため、さらに曲数を増やしてほしいという声が多数寄せられた。模範演奏映像を試聴させて対面式レッスンを補うこと、および試聴前後の学生の演奏を比較し、模範演奏の効果を分析することに意識を傾けていた筆者らには想定外のことだった。

そこで、筆者らは、少ない対面式レッスンを補うという同じ目的の実現に向けて、より有益な注釈付楽譜を作成することにした。その際、できる限り主観を廃するためにADDIEモデルに準拠した客観的な方法を採用し、その準備とし

て、既に作成した7曲の注釈付楽譜に対する履修学生の意見の中から、役に立った点、改善してほしい点などをまとめ、それと並行して、学生有志の協力を得て、新しく注釈を付ける楽曲の選定を行った。

次に、「児童音楽Ⅰ」担当教員がこの投票結果に基づいて意見交換を行い、50曲（正確には、上述した7曲を除く43曲）を決定し、43曲の楽譜への注釈付けに着手した。その後、注釈付けが一通り終わった段階で、2010年度前期、児童学科固有科目「児童音楽Ⅱ」の履修学生にこの注釈付楽譜草稿を見せ、注釈に対する意見を収集した。この注釈付け作業は試行錯誤を繰り返した後に完了し、『子どものうたピアノ弾き歌いベスト50』（仮）として2011年春に音楽之友社から発売されることになっている。

2. 注釈付楽譜の構成

eラーニングにおけるインストラクショナルデザイン（授業設計）は、古くはガニエらによって提唱され、近年盛んに研究されている分野であるが、音楽教育、特に保育者養成機関におけるピアノ弾き歌い指導においては、こうしたデザインについて言及する研究はこれまでなされてこなかった。そこで筆者らは、教材の構成を授業設計と位置づけ、教材である注釈付楽譜を

作成するにあたって、eラーニングにおけるインストラクショナルデザインの方法に基づくことにした。

注釈付楽譜の利用者である保育者養成機関の学生の音楽経験、ピアノ学習歴などはさまざまであり、学生の音楽的能力、歌やピアノの実技能力に合わせた楽譜でなければ有効に活用されないという点を踏まえ、筆者らはADDIEモデルに準拠する形で、注釈付楽譜の作成を行った。ADDIEモデルとは、A（分析）、D（設計）、D（開発）、I（実施）、E（評価）の5つのフェーズによるインストラクショナルデザインで、ADDI各フェーズに対して随時Eを課す形となっている。その概念図を図1に示す。

A（Aanalyse：分析）

- ・2007年以降、7曲の注釈付ピアノ弾き歌い楽譜を作成し、実際のレッスンで使用してきた。（3. 1）

- ・2009年度前期、上記の注釈付楽譜に対する履修学生の意見を収集し、肯定的意見・否定的意見・要望に分類した。（3. 2, 3. 3）

- ・2009年度、新たに注釈付けを行う楽曲を選定するために、学生に質問紙調査を実施した。（4. 1）

D（Ddesign：設計）

- ・2009年度、Aanalyseで行った分析に基づき、

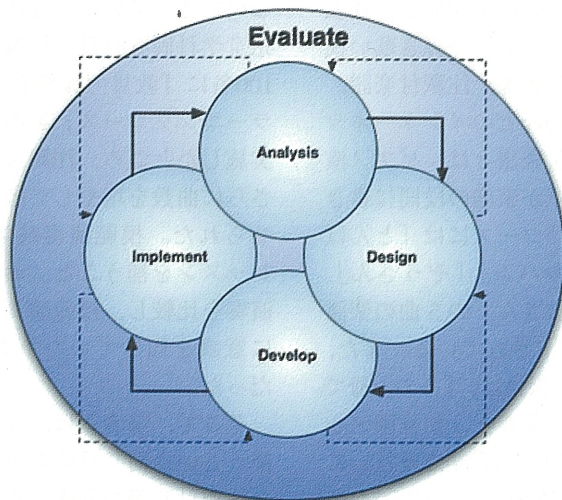


図1 ADDIEモデルの概念図

(http://www.nwlink.com/~donclark/history_isd/addie.htmlより引用)

注釈の表記方法に関する検討と楽曲の選定を行った。肯定的意見・否定的意見・要望それぞれを最大限生かした。(4. 1, 4. 2)

D (Development: 開発)

- ・2009年度, Designでの設計に基づき, 注釈付楽譜の作成を行った。(4. 1, 4. 2)

I (Impleyment: 実施), E (Evaluate: 評価)

- ・2010年度前期, Developmentにおいて開発された注釈付楽譜を履修学生が閲覧し, 内容に対する評価を行った。(5. 1)

- ・Impleyment, Evaluateで抽出された学生による肯定的意見・否定的意見・要望に基づき, Developmentを重ねた。(5. 2)

以下に, それぞれのフェーズにおける経緯を詳しく説明する。

3. 注釈付楽譜7曲とそれらに対する履修学生の意見

3.1 注釈付楽譜7曲の選定方法

『教員・保育者のためのピアノ実技eラーニングコース』の構想がもちあがった2006年, 予備調査として, 提供してほしいコンテンツを学生に尋ねたところ, 「弾き歌いの模範演奏が見たい」, 「声の出し方(発声法)を説明してほしい」, 「指づかいについて実例を示して欲しい」, 「弾き歌い, ピアノ演奏の姿勢や表情, 視線について注意すべき点を示して欲しい」などの要望があ

がった¹⁾。指づかいについて実例を示すには, 指番号が書かれた楽譜が最も効果的であることから, 指番号などが記入された楽譜を作成しようということになった。

当時(から今日に至るまで), 少ない授業時数を補充するために履修学生に自身の演奏映像を提出させており, 2006年度「児童音楽I」における映像提出回数上位7曲が「あめふりくまのこ」「いぬのおまわりさん」「とんぼのめがね」「思い出のアルバム」「ぞうさん」「しゃぼんだま」「森のくまさん」であった²⁾。

深見はこのうちの2曲(「あめふりくまのこ」「いぬのおまわりさん」)の注釈付楽譜を既に『この一冊でわかるピアノ実技と楽典—保育士, 幼稚園・小学校教諭を目指す人のために』に掲載することを決めていたため, 残り5曲の注釈付楽譜を『教員・保育者のためのピアノ実技eラーニングコース』用として, 作成することにした。予算面や労力面を考慮してもこの程度の曲数が妥当であった。

注釈付けをする際に拠り所になったのは履修学生が提出した映像である。学生の演奏映像を分析し, 間違いやすい箇所や陥りやすい点を映像から抽出し, それらを楽譜に書き込んでいった。このようにして作られたのが, 図2に示す注釈付楽譜である。

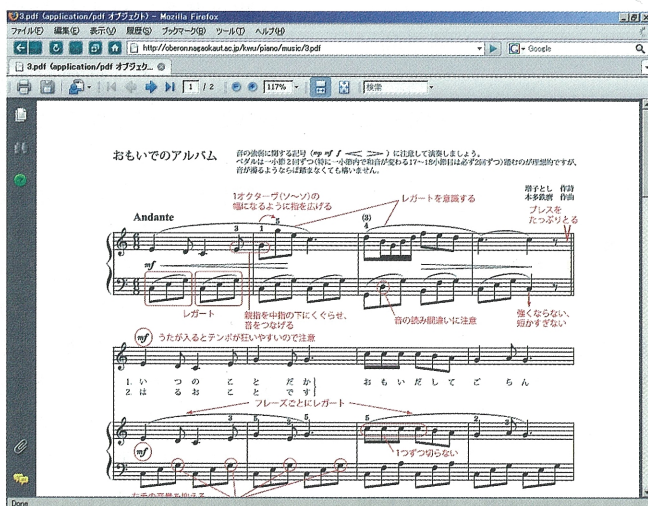


図2 注釈付楽譜の例

3.2 注釈付楽譜7曲に対する履修学生の肯定的意見

2009年に「児童音楽Ⅰ」の履修学生に対して実施した質問紙調査では、回答者の多くが注釈付楽譜に関して肯定的意見を述べ、その有効性を認めている。それらをまとめると以下のとおりである。

- ・模範演奏映像を視聴しただけではわからないことが書かれてあり、4つのコンテンツの中で最も参考になった。
- ・PDF形式の注釈付楽譜をプリントすれば、場所、時を選ばずにそれぞれのペースで閲覧することができる。
- ・この楽譜に一度目を通してポイントを押さえ、その後に練習すれば、普段ピアノ演奏に気をとられ、軽視しがちな歌詞などにも気をつけながら弾き歌いすることができる。
- ・この注釈付楽譜と模範演奏を併用し、注釈付楽譜を見てから模範演奏を視聴すると非常にわかりやすい。
- ・レッスン中に注意された事柄を楽譜に書き込むようにしているが、その他の箇所については注意を怠りがちである。注釈付楽譜によって全体のポイントがわかり、参考になる。
- ・練習の際に気になるところが出てきた際に、注釈付楽譜によって確認することができるので便利である。
- ・各楽譜の冒頭に書かれている「演奏上の留意点」を読んでから練習に取り組むと効果的である。
- ・注釈付楽譜を見ることによって、強弱やレガート、歌い方など、練習の際に見落としがちな点について理解できる。
- ・注釈付楽譜を見ることによって、実際のレッスンで注意されたことを復習する機会が増える。
- ・部分練習をする箇所が明示されているため、どこを重点的に練習したらよいかかわかりやすい。
- ・楽譜に“注意”と書かれている箇所があるため、自覚して演奏するようになり、他の楽曲の楽譜にも赤ペンで注意を書き入れる習慣が

身についた。

楽譜に書き込まれた注釈の中で、学生が有益であると感じた項目を、〔ピアノ〕〔歌唱〕〔全体〕にわけて具体的にまとめると次のようになる。

〔ピアノ〕音符の長さ、休符の長さ、間違いやすい音、スタッカートの強さや軽さの程度、ペダルを踏む箇所、ペダルを止める箇所、指づかい、右手と左手との音量バランス、強弱およびその変化、アーティキュレーションの間違い、指の広げ方や動かし方

〔歌唱〕ブレスの位置、ブレスの量、レガートへの意識、歌詞の意味、音符の長さ、鼻濁音、促音、高い音へ以降する直前の歌い方、音程がずれやすい箇所への注意

〔全体〕元の楽譜に書かれているのに気づかない音の強弱、元の楽譜に記載されていない細かな音の強弱、前奏から歌に入る箇所でのテンポのキープ、曲の途中でのテンポのゆれ、レガートで演奏する箇所、ピアノと歌との音量のバランス

3.3 注釈付楽譜に対する履修学生の否定的意見および要望

注釈付楽譜に対する否定的意見や要望をまとめると以下のとおりである。

- ・テンポの指定に納得できない曲があった。
- ・弾き歌いが得意な人には当然のことが書かれている。
- ・“特に注意”という注釈が書き込まれていたが、どのようなことに注意するのか具体的に書かれていないので、初心者にはわからない。
- ・“レガートで演奏する（歌う）”は理解できても、どうすればレガートになるのかがわからない。“和音をレガートで弾けるように”という表現ではなく、“次の音を鳴らす直前まで○の指は鍵盤に残しておく”といったように具体的に書いてあれば実行しやすい。
- ・注釈を見ながら演奏することは難しい行為で

ある。

- ・ペダルの踏み方、止めるタイミングについてもう少し詳しく解説してほしい。
- ・指番号をもう少し詳しく記入してほしい。
- ・狭い範囲に赤色で注釈がぎっしり書かれていると見づらい。
- ・“鼻濁音に注意”という注釈について、実際にどのように注意すればよいかかわらなかった。

4. 新規注釈付楽譜の作成に向けて

4.1 新たに注釈を付ける楽曲の選定

履修学生の注釈付楽譜に対する肯定的意見（現状のままでよい点，2. 1. 2）と要望（改善すべき点，2. 1. 3）を参考に，2010年2月より注釈付ピアノ弾き歌い楽譜集の編纂作業に取りかかった。

注釈を付ける楽曲を決定するために学生有志による投票を行った。その結果は以下のとおりである。

曲名	人数
「さんぽ」	24名
「おばけなんてないさ」	15名
「おもちゃのチャチャチャ」	
「アイスクリームのうた」	14名
「いぬのおまわりさん」	
「あめふりくまのこ」	13名
「おべんとう」	11名
「世界中のこどもたちが」	10名
「もりのくまさん」	
「となりのトトロ」	
「めだかのがっこう」	9名
「にじ」	8名
「おもいでアルバム」	
「せんろはつづくよどこまでも」	7名
「ぼくのミックスジュース」	
「とんぼのめがね」	6名
「崖の上のポニョ」	
「どんぐりころころ」	
「どんな色がすき」	
「いちねんせいになったら」	
「やまのおんがくか」	

「にんげんっていいな」 「とんでったバナナ」 「きのこ」 「アイアイ」	5名
「おはよう」 「だから雨ふり」 「おはようクレヨン」 「ぞうさん」 「アンパンマンのマーチ」 「大きな古時計」	4名
「ドレミの歌」 「しゃぼんだま」 「あわてんぼうのサンタクロース」 「コンコンクシャンのうた」 「そうだったらいいのに」 「ちいさいあきみつけた」 「はじめの一步」 「かわいいかくれんぼ」 「南の島のハメハメハ大王」 「バスごっこ」	3名
「おかえりのうた」 「やぎさんゆうびん」 「ドキドキドン！一年生」 「おしょうがつ」 「うれしいひなまつり」 「こいのぼり」 「たきび」	2名
「Happy Birthday to You」 「たなばたさま」 「おつかいありさん」 「ジングルベル」	1名

この結果を参考にして，児童学科「児童音楽Ⅰ」担当非常勤講師，石田純子・井上まゆみ・富岡順子・稗方攝子・山本浩美，短期大学部准教授，岡林典子，短期大学部非常勤講師，村田睦美によって注釈付けをする楽曲の選考を行った。

選考の際の基準は，保育士・幼稚園教諭になったときに役に立つ“季節のうた”，“生活のうた”や“歌い継ぎたいうた”であること，初心者でも手軽に演奏できる楽曲が含まれること，

その一方で、ピアノ熟達者にも弾き応えのある楽曲も含まれることなどであった。子どものうたの楽譜は1ページから長くて3ページであり、楽譜集の価格設定から総ページ数を算出したところ、『教員・保育者のためのピアノ実技eラーニングコース』『この一冊でわかるピアノ実技と楽典—保育士、幼稚園・小学校教諭を目指す人のために』において掲載した7曲を含む50曲（このうち、ピアノ伴奏譜を編曲し直す曲は4曲）を選定し、さらに新たにピアノ弾き歌い編曲譜6曲を「付録」として加えて、合計56曲とした（付表）。

学生による投票で上位だったにもかかわらず選定時に外れた楽曲は、「世界中のこどもたちが」「せんろはつづくよどこまでも」「ほくのミックスジュース」「崖の上のポニョ」「どんな色がすき」「とんでったバナナ」「ちいさいあきみつけた」「はじめの一步」である。

不採用の理由はさまざまであり、「世界中のこどもたちが」はメロディが単調なわりに歌詞の構成が複雑であるため、「せんろはつづくよどこまでも」は付点、複付点に対する見解の一致が困難であるため、「ほくのミックスジュース」は原調の音域が高いため（なるべく移調せずに原調を採用する方針をとった）、「崖の上のポニョ」は「付録」の編曲楽譜の紙幅に制限があったため、「どんな色がすき」は作詞・作曲者の偏りを避けるため、「とんでったバナナ」「ちいさいあきみつけた」はピアノ伴奏の難易度が高すぎるため、「はじめの一步」は小学生向けの楽曲であるためである。

他方、学生の投票では曲名があらなかったにもかかわらず掲載することにした楽曲は、たとえば、「歌い継ぎたいうた」として「とけいのうた」「おなかへるうた」、季節のうたとして「まつぼっくり」「ゆき」「まめまき」、生活のうたとして「せんせいとおともだち」、季節のうた「あそびのためのうた」として「やきいもグーチーパー」である。

楽曲の配列は、教員8名が難易度を4区分し、その平均をとって難易度の低いほうから高いほうに並べることにした。難易度A（易）が12、B

が16、Cが12、D（難）が10になった。

4.2 新規43曲に対する注釈付け作業

注釈付けの作業は、ピアノが専門の石田と井上、富岡と山本、岡林と村田がそれぞれペアになり、全体の3分の1ずつ、主としてピアノ伴奏に対する注釈付けを、声楽が専門の稗方が全曲の歌唱に対する注釈付けを行い、その後、深見と赤羽が取りまとめた。

注釈を付ける際に考慮したのが、注釈付楽譜に対する履修学生の肯定的意見、否定的意見および要望である。既出7曲の注釈付けの方法を踏襲することで学生の肯定的意見に応え、可能な限り具体的でわかりやすい注釈を付けることで学生の要望を最大限実現するように努めた。

最も苦慮したのはピアノ伴奏の指番号であった。指番号については、最適と判断する番号が担当した二人の間で異なっており、さらに深見の判断とも合致しないということもあったが、初心者が弾きやすいように、指替えや指くぐり、ある指を鍵盤から離さないようにしながら別の指に替えるなど、複雑な動きをなるべく避けるようにした。また、一般的に上級者では指を替える同音連打においても、初心者向きに同じ指で弾くことを可とした。ただし、上級者は、初心者向きの指づかいには違和感をもつ傾向にあるため、上級者向きの指づかいを併記している箇所も多くある。

歌唱に対するより具体的な注釈付けも困難な作業だった。なぜなら、日常の授業やレッスンにおいて声楽の教師が実演を交えながら指導している内容、「おなかを使って」「あごやのどに力を入れないで」「おなかを膨らませて」「息を支えて」「声を速くに投げるように」などの助言を楽譜の隙間に文字で記入しなければならなかったからである。

5. 注釈付ピアノ弾き歌い楽譜集の編纂に向けて

5.1 新規43曲の注釈付楽譜草稿に対する履修学生の意見

注釈付け作業が一通り終わった段階で、注釈付楽譜草稿43曲分を、「児童音楽Ⅱ」履修学生9名に見せ、学期末のレポートとしてこの注釈に

対する意見を収集した。「児童音楽Ⅱ」は必須科目である「児童音楽Ⅰ」とは異なり、比較的音楽を得意とする学生が履修する科目である。注釈付楽譜草稿に関して評価できるとした事柄を要約すると以下のとおりである。

- ・全体としてどのような曲なのか、どのような点に注意したらよいか書かれている。
- ・ただ歌うだけではなく、実践現場における応用例が書かれている。
- ・和音の押さえ方が難しい箇所補助的に鍵盤図が添えられている。
- ・「のどを締めすぎない」「腹筋を使う」など、歌唱に関する具体的な解決方法が示されている。
- ・息つぎのタイミングやブレスの位置が詳しく書かれている。
- ・その楽曲が表している情景や作られた背景が詳しく書かれてあり、イメージを膨らませることができる。
- ・グリッサンドの範囲の目安、トレモロの弾き方などが具体的に書かれている。
- ・前奏がない曲の場合、前奏に適した箇所（最後の2小節や4小節など）が示されているものがある。
- ・顔の表情や歌い方に関する助言において独特なたとえが用いられている。
- ・元の楽譜に掲載されていないペダル記号や強弱記号が書かれている。

改善点や要望を要約すると以下のとおりである。

- ・“メエメエ、ニャー”は少し音程を外してもよい(ex「おもちゃのチャチャチャ」)、“フー!”や“イエーイ”などの奇声を発するのもよい(ex「南の島のハメハメハ大王」の後奏)と書いてあったが、どのようにやったらよいかわからない。
- ・注釈がありすぎると難しく思える。また、アドバイスが多すぎるとどれから練習すればよいかわからないので、優先順位が書かれている方がよい。
- ・指づかいは参考になるが、あまりたくさん書

いてあると窮屈さを感じる。

- ・前奏の終わりに“さん、ハイ”といった歌へ誘う掛け声を書いてある楽譜があったので、全てに記載してほしい。
- ・ピアノに対する助言、歌に関する助言を区別するために、注釈の色を変えてみると見やすい。
- ・初心者には音楽用語(シンコペーション、アウフタクト、poco a poco cresc. など)の意味がわからないと思われるので、それぞれの意味も掲載したほうがよい。
- ・イラストを入れるとさらにわかりやすくなる。
- ・弾き歌いに対する大まかな助言が曲集の初めにまとめて記されているとよい。
- ・歌に関する助言において表現が異なる箇所が散見されるので(“お腹を使って”、“お腹のパワーを使って”など)、統一してほしい。
- ・曲の途中でページをめくる必要がないように配置してほしい。

5.2 注釈付楽譜50曲の完成

履修学生の注釈付楽譜草稿に対する肯定的意見(現状のままでよい点)と要望(改善すべき点)を参考に、深見が注釈付け作業を続けた。完成に向けて以下の点に配慮した。

- ・それぞれの楽曲ごとに、演奏する際の大まかな助言や全体に対する注意が書かれた「より良い演奏のためのアドバイス」を付した。
- ・子どもと一緒に歌うことを前提に、前奏がない楽曲のすべてに前奏に適した箇所を示した。
- ・この楽譜集の読者層には初心者も多く含まれると予想されるため、自由度の高い即興的な声楽表現を促す助言は取り下げ、基礎的な内容に絞った。
- ・それぞれの楽曲について注釈の量を点検した。
- ・同じフレーズを自分でみつけることを重視し、同じフレーズにはなるべく指番号を記入しないことを基本とした。
- ・掛け声をかけるとピアノ演奏が乱れそうな場合を除き、“さん、ハイ”“ハイ”という歌に入る前の掛け声を記した。
- ・初心者に配慮し、曲の出だしの両手それぞれ

の音に指番号を記入した。

- ・ピアノと歌の両方に関する助言が含まれているため、注釈はピアノと歌唱で色分けせず、一色（青色）にした。（費用面からも一色が妥当である。）
- ・音楽用語を使用する注釈は極力控えた。
- ・注釈が入っているだけでも窮屈な印象になるため、一部のマーク以外、イラストは入れないことにした。
- ・3ページにおよぶ楽曲を除き、曲の途中でページをめくる必要がないように配置した。

加えて、既に著書やインターネットで公開している7曲に関しては、新たに作成した43曲の注釈とのバランスを図るため、全体の注釈量は減らしつつ、歌唱に対する注釈を増やし、言い回しや表記の統一などを試みた。

5.3 ピアノ弾き歌い編曲譜の制作

注釈付楽譜50曲の他に、6曲のピアノ弾き歌い編曲譜を新たに制作し、巻末に「付録」として掲載した。

50曲については、幼児教育関係者に子どものうたとして概ね認知された楽曲に限定することで曲集の真正性（authenticity）を求め、同時にアニメなどの楽曲に良質なアレンジを施すことによって斬新さ（novelty; originality）を目指した。

ピアノ弾き歌い編曲譜を作成したのは、「さんぽ」「となりのトトロ」「Happy Birthday to You」「アンパンマンのマーチ」「いつも何度でも」「ありがとう ころをこめて」であり、編曲は赤羽が行い、深見が補佐した。

「さんぽ」「となりのトトロ」「Happy Birthday to You」「アンパンマンのマーチ」の4曲は学生による投票において掲載希望楽曲に入っており、特に「さんぽ」は2位を大きく引き離して1位の楽曲である。

「さんぽ」「となりのトトロ」は、次世代に受け継ぎたい楽曲として評価が確定している。「Happy Birthday to You」は世界で最も歌われている楽曲としてギネス世界記録にも登録されて

いるが、これまで子どものうたのピアノ楽譜集に良質な楽譜が載っていなかったことから、多くの人たちに演奏されることを見込んでいる。「アンパンマンのマーチ」はテレビアニメの主題歌であり、一過性の要素が高いという理由で否定する幼児教育関係者もいる。しかし、人々に勇気を与える深いメッセージ性をもつ楽曲であり、かつ、音階練習に使用でき、指くぐりなどの基礎的なピアノ演奏技術が学べるという点から採用することにした。

「いつも何度でも」「ありがとう ころをこめて」の2曲は、歌詞の爽やかさ、温かさ、心にしみる親しみやすい曲想、演奏のしやすさなどの理由から、筆者らが選出した。

いずれの編曲譜も上級者が堪能できる水準を保っている。同時に、「さんぽ」「となりのトトロ」では曲の途中の転調を省略して短縮バージョンとして演奏することができ、「Happy Birthday to You」「いつも何度でも」も一番のみで完結できるようになっており、初心者にも取り組みやすい工夫が随所になされている。

原曲を聴きながら楽譜を見ると、音の取捨、和音にするか単音にするかなどの面で配慮がなされていることがわかるだろうが、紙幅の関係でここでは省略する。

おわりに

本稿では、ADDIEモデルに準拠した注釈付楽譜の作成に関する知見をまとめた。

子どものうたのピアノ楽譜集は既に非常に多く存在し、現在も次々に新しい楽譜集が編纂されているが、指番号が記入されている楽譜でさえ非常に少なく、ピアノ初心者にとってはこれらの楽譜集を用いた弾き歌いの自習は困難である。こうした状況下、今回編纂されたピアノ楽譜集には、指づかいのみならず、ピアノ演奏や歌唱に関する注意事項が楽譜の段間に書き込まれており、初心者のピアノ弾き歌いへのモチベーションを高めるために有効であると思われる。筆者らは、この注釈付楽譜の作成に際して教育工学的手法を採用したが、今後も注釈付楽譜を使用した場合と一般の楽譜を使用した場合

との比較においても教育工学的なアプローチによって、注釈付楽譜の効果を検証していきたいと計画している。

しかし、多くの注釈が記入されているとはいえ、注釈付き楽譜だけで自習させることには大きな問題がはらむ。筆者らは、2008年に教師による一方向的な実演と音声による助言によって学生の演奏がどの程度向上するのかを分析したことがあったが、その際も、目覚しく上達した学生がいた一方で、助言した事柄を過剰に表現する、その箇所にとらわれて他の箇所の演奏がぎこちなくなるといった弊害も多く見られた¹⁰⁾。注釈付楽譜の使用に関しても同様に、たとえば「だんだんと強くして」という注釈の付いている箇所が必要以上に強くしたり、また「ゆったりとした気持ちで」という箇所ではテンポが遅くなってしまうといったことなどが十分に起こり得ると考えられる。

こうしたことから、注釈付楽譜は、練習にとりかかる前に注釈付楽譜を見る、注釈付楽譜を見た後で対面式レッスンを受ける、対面式レッスンで学んだことを注釈付楽譜で確認する、模範演奏映像の視聴後に注釈付楽譜を見て、さらにポイントを絞って再び模範演奏映像を視聴するといった方法で地道な練習をサポートするための一ツールとして活用されることが理想の姿であるだろう。「注釈付楽譜を見ながらピアノで弾き歌いすることは難しそうだ」。履修学生らのこの言葉が今後の方向性を予見しているように思われる。

〔註〕

- i) R.M.ガニエ, W.W.ウェイジャー, K.C.ゴラス, J.M.タラー『インストラクショナルデザインの原理』鈴木克明・岩崎信監訳 北大路書房 2007
- ii) 深見友紀子・中平勝子・赤羽美希・小林田鶴子「ピアノeラーニングに向けて～学生が演奏映像を自主的に提出する試み～」『京都女子大学発達教育学部紀要』vol.3 pp.33-41 2007
- iii) 深見友紀子・中平勝子・赤羽美希「ピアノ弾き歌い実技指導における練習映像提出併用の効果」『京都女子大学発達教育学部紀要』vol.4 pp.19-27 2008
- iv) 深見友紀子・中平勝子・赤羽美希「ピアノ弾き歌いにおける遠隔・非対面指導の効果と課題」『京都女子大学発達教育学部紀要』vol.5 pp.31-40 2009

〔参考文献〕

- ・『やさしく弾ける保育のピアノ伴奏 幼稚園、保育園現場の声から選ばれた全120曲』新星出版社 2010
- ・『現場で役立つ 幼稚園教諭, 保育士のためのピアノ入門』東京福祉専門学校編 ドレミ楽譜出版 2009
- ・『保育学生, 保育者のための子どもの音楽提言と子どもの歌60選』教育芸術社 2006
- ・『やさしい弾き歌い75』植田光子編著 音楽之友社 2007

付表 子どものうた弾き歌いベスト50 掲載曲

No.	曲名	作詞者	作曲者	編曲者	難易度
1	どんぐりころころ	青木存義	梁田 貞		A
2	おべんとう	天野 蝶	一宮道子		A
3	こいのぼり	絵本唱歌	絵本唱歌	赤羽美希	A
4	だから雨ふり	新沢としひこ	中川ひろたか		A
5	おもちゃのチャチャチャ	野坂・吉岡	越部信義	深見友紀子	A
6	たなばたさま	権藤・林	下総院一		A
7	とんぼのめがね	額賀誠志	平井康三郎		A
8	まつぼっくり	広田孝夫	小林つや江		A
9	せんせいとおともだち	吉岡 治	越部信義	伊東慶樹	A
10	おしょうがつ	東 くめ	滝廉太郎		A
11	おかえりのうた	天野 蝶	一宮道子		A
12	おもいでアルバム	増子とし	本多鉄磨		A
13	ジングルベル	宮沢章二訳	ピアポント	赤羽美希	B
14	おつかいありさん	関根栄一	團伊玖磨		B
15	かわいいかくれんぼ	サトウハチロー	中田喜直		B
16	めだかのがっこう	茶木 滋	中田喜直		B
17	しゃぼんだま	野口雨情	中山晋平		B
18	にじ	新沢としひこ	中川ひろたか		B
19	南の島のハメハメハ大王	伊藤アキラ	森田公一	早川史郎	B
20	おはよう	新沢としひこ	中川ひろたか		B
21	おはようクレヨン	谷山浩子	谷山浩子	おくいくお	B
22	ドレミの歌	ペギー葉山訳	R.ロジャース	深見友紀子	B
23	たきび	巽 聖歌	渡辺 茂		B
24	やきいもグーチーパー	阪田寛夫	山本直純		B
25	ゆき	文部省唱歌	文部省唱歌		B
26	まめまき	絵本唱歌	絵本唱歌		B
27	うれしいひなまつり	サトウハチロー	河村光陽		B
28	山の音楽家	水田詩仙訳	ドイツ民謡		B
29	ドキドキドン！ 一年生	伊藤アキラ	桜井 順	奥山 清	C
30	とけいのうた	筒井敬介	村上太朗		C
31	おなかのへるうた	阪田寛夫	大中 恩		C
32	ぞうさん	まどみちお	團伊玖磨		C
33	やぎさんゆうびん	まどみちお	團伊玖磨		C
34	アイスクリームのうた	佐藤義美	服部公一	松山祐士	C
35	オバケなんてないさ	榎 みのり	峯 陽	伊東慶樹	C
36	バスごっこ	香山美子	湯山 昭		C
37	きのこ	まどみちお	くら掛昭二		C
38	あわてんぼうのサンタクロース	吉岡 治	小林亜星		C
39	ふしぎなポケット	まどみちお	渡辺 茂		C
40	にんげんっていいな	山口あかり	小林亜星	小島弘章	C
41	おはながわらった	保富庚牛	湯山 昭		D
42	いぬのおまわりさん	佐藤義美	大中 恩		D
43	サっちゃん	阪田寛夫	大中 恩		D
44	あめふりこくまのこ	鶴見正夫	湯山 昭		D
45	アイ・アイ	相田裕美	宇野誠一郎		D
46	もりのくまさん	馬場祥弘訳	アメリカ民謡	玉木宏樹	D
47	大きな古時計	保富庚牛訳	H.G. ワーク	小林秀雄	D
48	コンコンクシャンのうた	香山美子	湯山 昭		D
49	そうだったらいいのにな	井出隆夫	福田和禾子		D
50	一年生になったら	まどみちお	山本直純		D

◎ピアノ弾き歌い編曲譜（付録）

No.	曲名	作詞	作曲	編曲	難易度
1	アンパンマンのマーチ	やなせたかし	三木たかし	赤羽美希	/
2	Happy Birthday to You	ヒル	ヒル姉妹	赤羽美希	
3	となりのトトロ	宮崎 駿	久石 譲	赤羽美希	
4	さんぽ	中川李枝子	久石 譲	赤羽美希	
5	いつも何度でも	覚和歌子	木村 弓	赤羽美希	
6	ありがとう ころをこめて	山崎 浩	山崎 浩	赤羽美希	